

第6学年 国語科学習指導案

日時 令和3年11月10日(水) 5校時
場所 6年3組教室
児童 男20名 女15名 計35名
指導者 太田 圭

1 単元名 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう
教材名 「海の命」(光村図書 6年)

2 内容のまとめり
第6学年

[知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方 オ

[思考力, 判断力, 表現力等] 「C読むこと」(1) エ・オ (2) イ

3 単元の目標

(1) 語句と語句との関係, 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して, 語や語句を使うことができる。

[知識及び技能] (1) オ

(2) 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり, 表現の効果を考えたりすることができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] C (1) エ

(3) 文章を読んで理解したことに基づいて, 自分の考えをまとめることができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] C (1) オ

(4) 言葉がもつよさを認識するとともに, 進んで読書をし, 国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力, 人間性等」

4 単元について

(1) 児童について

ア これまで, 物語を読む学習において, 人物どうしの関わりを読む学習や表現の工夫や効果に着目して読む学習を行ってきた。

イ 前単元の「やまなし」の学習では, 文章を読んで理解したことに基づいて, 自分の考えをまとめたり, 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり, 表現の効果を考えたりするという経験がある。

ウ 情景描写や文章表現などに着目して, 人物像を捉える力が身に付いてきている。

(2) 教材について

ア 本教材は, 海で生きる太一が, 様々な人物の影響を受けて成長する姿を通して, 生きることや自然との関わり方を考えさせるといった物語である。

イ 作中には, 自然と共に生きる人間の魅力や自然に対する畏敬の念が表現されている。小学校生活のまとめの時期を迎える児童にとって, 自分の生き方を見つめ直すために読む意義のある作品である。

ウ 書きぶりでは, 細やかな行動描写, 巧みな比喻や色彩表現, 臨場感を生み出す文末表現などがある。これらの優れた表現によって, 児童は物語の世界観を豊かに想像し, 味わうことができると考える。

(3) 指導について

ア 本単元における言語活動として, 太一の生き方や考え方をとらえ, 考えを交流する活動を設定する。また, 単元の最後には, 自分自身の生き方や考え方を発表する時間を設定する。

イ 「海の命」という題名やリード文を生かして物語の展開を予想したり, 自分に影響を与えた人物について思い浮かべたりして, 本文と出会う。また, 自らの生活経験や考え方などを照らし合わせながら, 登場人物それぞれの生き方や考え方についてまとめる。その上で, 太一と周囲の人物の関係性や影響について, 人間関係図などを使って捉える。意見を交流する場面では, 他者と比較し, 感じたことや考えたことを伝え合うことで, 自分の理解状況を客観的に捉えることができるようにする。また, 考えを形成・共有するための手立てとして, 友達や教員など他者の読みに触れる機会を意図的

に設定する。多様な読み方に触れ、対話を通して考えを交流することで、自分の読みの力を更新し、「言葉による見方や考え方」を広げさせる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語句と語句との関係、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1) オ)	① 「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C (1) エ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C (1) オ)	① 進んで、文章を読み、理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って、発表しようとしている。

6 単元の指導計画 (全7時間 本時 6/7)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
第1次	1	○題名やリード文から物語の内容について想像する。 ○全文を通読し、感想や話し合っ て確認したいところなどを共有する。 ○物語の設定や展開を確かめる。 ○登場人物の関係や生き方について考え、最後には自分自身の生き方や考え方を発表するという学習の見通しをもつ。	・題名や自分の生き方に影響を与えた人物について考えを膨らませることで、作品への関心を高められるようにする。 ・心に強く残ったところなどに線を引いて意識できるようにする。 ・太一が何らかの影響を受けて変容・成長する物語であることを確認する。 ・単元の流れと最終的な到達点を示す。	
第2次	2	○叙述を基に、父、与吉じいさ、母の人物像を捉え、太一にどのような影響を与えたかを考える。	・教科書P.307「言葉の宝箱」を活用して、人物像を表現するよう助言する。	【知・技①】 [発言・記述] 人物像や心情を表す語や語句を、語感を意識しながら適切に使っている。
	3	○叙述を基に、瀬の主の様子を捉え、瀬の主と対峙した太一の心情やその変化について考える。	・「本当の一人前の漁師」と「村一番の漁師」との違いや、太一に生じた葛藤の意味を考えるよう助言する。	【思・判・表①】 [発言・記述] 太一に影響を与えた父と与吉じいさの描写と結び付けながら、「海の命」について捉えている。
	4	○太一が瀬の主をもりで打たなかったわけや、海の命が表すものについて、考えを交流する。	・自分の考えを、叙述を根拠に伝え合ったり、多くの考えに触れて比較したりするよう助言する。	

第 3 次	5	○太一の生き方や考え方について、自分の考えをまとめる。	・行動、会話、様子など、複数の表現を関連付けて想像するよう助言する。	【思・判・表②】 [発言・記述] 太一の生き方や考え方について、他者の読みに触れ、複数の表現を関連付けてその人物のものの見方や考え方を想像している。
	6 本 時	○まとめた自分の考えを基に、他者の読みに触れ、グループで話し合う。	・友達や教員など、他者の考えに触れることで、共通点や相違点など、自分の考えを広げられるようにする。	【主体的①】 [記述] 課題に沿って話し合った内容をもとに、太一の生き方や考え方についての自分の考えをよりよいものにしようとしている。
	7	○生き方や考え方について自分の考えをまとめ、発表する。 ○単元を振り返り、学習をまとめる。	・単元のまとめの活動として全員が発表する場を設定する。 ・「たいせつ」「いかそう」を使って学びを確かめられるようにする。	

7 本時の指導

(1) 目標…対話を通して自分の考えを再構成することができる。

視点1…児童の既有的知識や様々な経験を結び付けて自分の考えをもたせ、表現させる

手立て…④確認交流（ペア・グループ・全体）

視点2…自分の考えを深めて表現させる

手立て…⑤言葉による見方・考え方を働かせる揭示・発問

・違う立場から対象を捉え比較させながら、自分の考え方を形成する。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 ◇評価
つ か む	1 前時までの学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の最終到達点と前時の学習を簡単に確認する。 ・本時は、対話を通して他者の多様な考え方に触れ、自分の考えを広げることを確認する。
	2 課題をつかむ。	
5 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ④ 太一の生き方や考え方について、自分の考えをまとめよう。 </div>	

<p>深 め る</p> <p>30 分</p>	<p>3 課題を解決する。</p> <p>(1) 自分がまとめた太一の生き方や考え方をグループで交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(視点1で期待する姿) 登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉えてきたことから、太一の生き方や考え方について自分の考えをまとめることができる。</p> </div> <p>(2) 他者の読みに触れ、考えを交流する。 Aの読み…太一は、命を大切にしている。 Bの読み…太一は、自信がない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(視点2で期待する姿) 他者が捉えた太一の生き方や考え方を提示し、自分の捉え方と比較することで、さらに叙述をもとに太一の生き方や考え方の適正回答を、児童全員で見付けていくことができる。</p> </div> <p>(3) 全体で共有する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;"> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える側は、根拠とした叙述や会話や行動を示すことを確認する。 ・聞く側は、共通点や相違点など、自分の考えと比べながら聞くように確認する。 <p>◇自分の考えと友達の考えの共通点や相違点などを比べ、自分の考えに生かしている。(発言・自分の考えの加筆)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見を交流する際、机上の空論にならないように、想像の根拠は文章に戻って見付けることを確認する。 ・自分がまとめた考えに戻って比べたり、友達の意見を聞いたりすることを通して、自分の考えを広げるように助言する。 ・共感や納得など、交流の視点を示す。 <p>◇友達と根拠をもって意見交流し、考えを広げている。(観察・発言・メモ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正回答を確認する。 </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(期待する意見)</p> <p>Aの読みに対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共感した。「母は、おだやかで満ち足りた美しいおばあさんになった。」という記述があるので、そこから太一が自分のお母さんの命をも大切にしていると読むことができる。 ・納得した。太一が泣きそうになったり、笑顔になったりした場面で、太一にはおとうや母など家族の顔が浮かんでいたと思う。「また、会いに来ますから。」と言って瀬の主を殺さなかった太一は、自分や家族、魚など、すべての生き物の命を大切にしていると思う。 <p>Bの読みに対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共感できない。「千びきに一びきしかとらないのだから、海の命は全く変わらない」という記述があり、太一は与吉じいさの教えを守って海の命をつないでいる。魚をとれないのではなく、必要以上にとらないと決断したので、自信がないわけではない。 ・納得できない。太一が生涯クエのことを誰にも話さなかったのは、言えなかったのではなく、言わなかったのだと思う。誰かに話せば、他の漁師がおとうの死んだ瀬に行き、危険な目に遭うかもしれないし、自分の妻や4人の子どもが太一のことを心配するかもしれないからだ。だから、恥ずかしくて言えないという考えには納得できない。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話から学んだことを、自分の考えに加筆修正することを確認する。

ま と め る 10 分	4 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの変容について記述するように指示する。 ◇他者の多様な考え方から、自分の考えを広げ、次時の発表に備えている。(自分の考えの加筆・ふりかえりの記述)
<p>(期待するふりかえり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えが<u>少し変わった</u>。自分の考えていた理由に<u>付け加えて</u>～ ○自分の考えが<u>変わった</u>。○○さんの考え方を聞いて共感したので～ ○自分の考えは<u>変わらないが</u>、人によって<u>様々な考え方があることが分かった</u>。 		

(3) 評価規準

評価の観点	おおむね満足	支援を要する児童への手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもって友達と積極的に意見交流し、自分の考えと他者の考えの共通点や相違点などを比べ、自分の考えに生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章から根拠を見つけて対話に参加し、他者の考えに理解を示したり、自分の考えを加筆修正したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考え方があることを理解させ、自分が感じたことを基にして、加筆修正させる。

(4) 板書計画

ふりかえり

- 自分の考え方はどうなったか。
- ・変わった。
- ・少し変わった。
- ・変わらなかった。

課題

海の命

立松和平

B

- 太一は自信がない。
- ・共感できない。
- ・納得できない。
- ・新しい考え方だ。

A

- 太一は命を大切にしている。
- ・共感した。
- ・納得した。
- ・自分の考えと似ている。

① 友達の読み

- ・共通点
- ・相違点
- ・学んだこと

② 他者の読み

交流の視点

- ・共感
- ・納得
- ・発見
- ・自分との違い
- 理由・根拠
- ・文章に戻る